

会 議 録 (会議経過含む)

会議の名称	平成27年度第1回まちづくり協議会
開催日時	平成27年8月21日(金) 午後2時～
開催場所	由利福祉保健センター「研修室」
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	「出席者名簿」のとおり
会 議 次 第	
1. 開 会	
2. 委嘱状交付	
3. 市長あいさつ	
4. 委員自己紹介、市側出席者紹介	
5. 協 議	
(1) 会長・副会長選任	
(2) 協議会活動の進め方について	
6. 説 明	
・市総合計画・主要事業について	
7. その他	
8. 閉 会	
会議の経過	別紙のとおり

◆出席者名簿（敬称略） 出席委員：15名

役職	氏名	出欠	行政出席者名簿	氏名
会 長	三浦 雄一	○	由利本荘市長	長谷部 誠
副会長	佐藤 イネ子	○	由利総合支所長	熊谷 甚悦
委 員	佐藤 寛夫	○	振興課長	豊嶋 喜一
委 員	板垣 武司	○	市民福祉課長	佐藤 繁俊
委 員	村上 典夫	○	産業課長	三浦 薫
委 員	二見 幸雄	○	建設課長	佐々木 昭
委 員	照山 カイ	○	教育学習課長	板垣 陽一
委 員	正木 みえ子	○	振興課課長補佐兼班長	木内 卓朗
委 員	石川 ひな子	○	振興課主査	阿部 雅樹
委 員	高橋 文子	○	振興課主査	鈴木 顕
委 員	沢井 英樹	○		
委 員	佐藤 耕秀	○		
委 員	板垣 昭男	○		
委 員	阿部 一彦	—		
委 員	佐藤 俊弘	—		
委 員	佐藤 君雄	○		
委 員	酒田 憲	○		

会議の経過

平成27年度 第1回 由利まちづくり協議会

と き 平成27年8月21日（金）午後2時～
ところ 由利福祉保健センター「研修室」

1. 開会（進行：豊嶋振興課長）

2. 委嘱状交付

3. 市長あいさつ

4. 委員自己紹介、市側出席者紹介

5. 協 議

（1）会長・副会長選任

委員から前期の会長・副会長がそのまま留任してはどうかと提案があり、他の委員もそれに賛成し、会長に三浦雄一氏、副会長に佐藤イネ子氏が選任。

（2）協議会活動の進め方について

木内課長補佐より説明

●A委員

先ほどの市長の挨拶でも協議会の提言を遺憾なく市政に反映したいというお話がありましたが、たとえば、由利地域や他地域のまちづくり協議会からの意見が反映されたという具体的な例はあるのでしょうか。

●三浦雄一会長

2つほどの課題がありました。1つは総合支所の建設予定地の決定に向けて、協議会でも部会を設置し、市政懇談会などで住民から出た意見などを基に、支所担当者からいくつかあった候補地に点数付けをして、福祉保健センター敷地を候補地として提言しました。

もう一つは、今年度から始まった、市総合計画「新創造ビジョン」について、由利地域の発展や施策について、どのような意見があるのかと求められたので、グループ討議などを行いまして、ご意見出たものの中で、4点ほど先ほどの挨拶で申し上げましたが、メインとしては、町政からの継続となりますが「心配なくとしょれるまちづくり」を全面に掲げようということ、その他3点についても、市側に提言し、当初なかったものを文章に盛り込んでもらったということです。

それから、由利本荘市まちづくり協議会連絡会議というものがあり、各地域の会長で構成しておりますが、地域課題などについて、議題に合うものについては発言させてもらいました。

協議会の活動としては、市のバスで由利地域内の施設などの状況を視察し、施設利活用などを検討しております。この企画運営部会の中で、今後2年間協議会として何をやるのかを方向付けることになると思います。あくまでも市へ提言や事業等についての意見を申し上げるといった役割であるのご理解いただければと思います。

●B委員

先ほど事務局から協議会の役割について説明がありましたが、「地域活性化及び交流事業への助言、協力、参画等」と説明がありましたが、具体的にどのようなことを考えればいいのか教えてください。

●豊嶋振興課長

こちらについては、地域づくり推進事業という補助事業がありまして、毎年申請が上がってきますが、こちらに基づくご助言をいただくといったことがありますが、いろいろと説明はしましたが、具体的にすべてを行っている訳ではないので、現段階ではこのくらいの活動となっております。

●三浦雄一会長

先ほども話しましたが、企画運営部会で協議した内容で行う自主活動ですので、定例のものと違って自分たちで主導して行うことになるわけですが、回数はそう多くもやれないので、企画運営部会で何をやるかを決めていただいて取り組んでいかないと、いっぱいやりたいということであれば、たくさん部会を設置してそれぞれ分担してということになるかもしれませんが、非常にタイトな中での自主活動になるのかと思います。今日の結果で2年間の方向性がだいたい決まると思うので、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

●C委員

観光協会の推薦で来ておりますので、由利地域の観光開発、観光振興を図っていければと思っております。由利地域、由利本荘市内でも観光に関しては、鳥海高原、由利原高原がありますので、これをメインとした発展を市観光協会でも毎年強く会長はじめ述べられておりますので、地元の住民が発展ある地域にしていきたいと思っております。

●A委員

事前に配布されたこれまでの取り組みを見てきまして、このようなことをしていれば、市議会はいらなくなるものだなと思ひまして、どの程度の提言がどのように反映されているのか気になって先ほど質問しました。

●D委員

私は小学校のPTA会長の役についておりますが、やっぱりだんだん生徒の数が少なくなってきたのが、一番の問題かなと思っております。できれば、少子化対策などについて協議していければと思っております。

●E委員

先日、北海道旅行をした際に、観光は自然ではなく、人を集めているのは、人が作ったもの、買うものがある、売るものがある、そのようなものだなとつくづく感じてきました。雄大な自然が見えるところには人はいなく、小樽の運河を少し上ったところには人が群がっているといったことを考えると何をどのようにしたらいいかわからないという感想を持って帰ってきました。私は、観光とはということをとらえるしかないと思います。

●F委員

冬期間シルバー人材センターの事業で除雪を行っておりますが、その中で、体の不自由な老人にも会いますが、この方々にとっては、旧由利町では「心配なく年寄れる…」ということ掲げていましたが、おそらく心配しながら生きているのだらうなと思ひ、なんとかできないものかと考え、自分たちの会館で何かおもしろいことしたいなというのが、私の活動の原点です。

もうひとつは、ある県で、まちづくり活動などを市の補助がもらえるからするといった感じで事業をして、最初は成功のように思われた事業も、何年かすると尻すぼみになって結局残ったものは、使われなくなった構造物などがほとんどだそうです。

また、課長さん方は、積極的にいろんなことを発信して何かをやってほしいなと思ひます。

● G委員

以前たばこ耕作をしており、研修で岩手県浄法寺町に視察に行ったことがあります。そこでは、子どもたちが学校から帰るとランドセルを置いて畑に行き、手伝いをして、もういいよと声がかかるとそれから遊びに行くということで、最初から遊びに行く子は誰もいないという話を聞いてきました。地理的にも厳しく、たばこなどの産業でないと地域が成り立たないようなところでした。学校の授業の中に、たばこ耕作の授業があることにも驚いて帰ってきました。ですから、学校の授業の中で地域産業のことを教えられているので、それに対し誇りも持っていますし、責任感もありますし、誰も畑で手伝っているのを見られて隠れるような子がいない。私たちの地域では、子どもが田んぼで手伝っていると、恥ずかしくて周りで遊んでいる子から見つからないように隠れるということがあります。そういう地域ですので、地元の産業の誇りは子どもたちにはないので、その地域の産業を継ぐ子が出てくるはずないのです。ですから、学校教育の中で地元産業に対しての体験など、こうやってこの地域が成り立っていることを教え、誇りを持てるような教育をしていかなければと思います。

もうひとつは、お年寄りの中にはとても素晴らしい特技や自慢できる技術を持っている方がいっぱいいると思います。今までの経験を生かし、ボランティアで社会に還元する仕組みがあってもいいと思います。

もうひとつは、若い方が地域のことに関与できる仕組み作りが必要だと思います。ある程度の企画を市から出していただいて、若い方々でやり方を検討し、地域の行政協力員が協力していくようなことがあってもいいと思います。

以上3点について、この場で答えを出せる意見かわかりませんが、疑問に思っていることを話させてもらいました。

● H委員

地域興しで、石窯によるピザ作りをやっております。由利地域で一番初めにゆりが丘に石窯を作らせていただきました。他地域にも亀田や東由利、西目、水辺プラザ、川辺、坂の下、花立などありますが、今、ネットワークを作りまして、ピザを皆さんに楽しんで作ってもらおうということをやっております。また、昨年国民文化祭の事業で「鳥海さんぽ」というフットパス事業を前郷地区で行い、その中でもピザ作りを体験してもらっております。1回40人程度ですが、過去2回開催しております。今年も9月22日にフットパス事業の中でピザ作り体験をやる予定です。私は、まちづくりも地域おこしも変わらないと考えますし、これが観光につながっていければと思っております。ピザ作り体験は、これから高原鉄道ともタイアップして進めているところです。私のできることはたいしたことではありませんが、今はそれでがんばっています。

● I委員

今の段階で具体的な考え方はありません。ありませんが、よく行政につく協議会、審議会というのは、いわゆる行政が作ったもののお墨付き、承認とこういうふうな、いわゆる〇〇がよくあります。そういう協議会でなくて、やはり、これからいろんな意見が出るでしょうから、そのことを現場に生かしてこそ、我々も意見を出しますので、それはお願いします。

それから、2年間の任期という話がありましたが、その前も同じような性格のものが合併から10年間やってきたと思います。それでどういったものを作ってきたのか伺おうと思いましたが、会長さんのあいさつやA委員の質問である程度わかりました。くれぐれもそのような協議会でなくて、皆さんから出た意見が反映されるような協議会に持っていけるように、事務局の方へもご配慮をお願いしたいと思います。

● J委員

だいぶ前に資料が届いていましたので、アンケートに何も書かないと悪いと思ひまして、ひとつ「心配なく子どもを育てることができるまちづくり」と書かせてもらいました。旧由利町

時代から「心配なくとしょれるまちづくり」ということで、老人にはかなり手厚くなってきており、介護施設の迎えの車が何台も来るのですが、乳幼児に関しては、0歳児から親が安心して仕事ができるような環境がまだなくて、祖父母がいれば初めて、保育園に通わせたり、うちで見ることができるのですが、夫婦2人だと、1年も育児休暇取れるところは限られますし、これからは「心配なくとしょれる…」はだいぶ浸透してきているので、先ほど少子化の話もありましたが、できれば、3歳まで預けられる環境を整えて、少ない給料で休みがとりづらい方もおるようなので、漠然とこのように書かせてもらいました。

●K委員

こうならなければいいとか、こうなればいいなという希望はあるのですが、そのためにどうすればいいかという具体的なやり方は考えが浮かばなくて、この時代に何年後には集落がなくなるとかいう話題がよく出てきて、すごく寂しいなと考えたりします。やっぱり、若い人たちが、ましてや全国からも注目されている学力のある秋田県の子どもたちが、ある程度の年になると、その知識を持ってどんどん外に出て行ってしまうのは、すごくもったいないと思って、やっぱり安心して働いて給料をもらって、そうなれば地元で結婚して子どもが生まれて育てて、そうなれば地域が活性化すると思うので、一番は働く場所かなと思っています。しかし、働く場をつくるといっても私たちには限界がありますし、ドンと大きな会社を持ってきてくれる人がいないかと夢のようなことを思うのですが、そういった中で、この地域の高校6校がいくらか減るとい話が出てきまして、それでは、中学校を卒業した時点で、ここの地域には入りたい高校がないからと、ほかの地域に出て行ってしまいう子どもたちもいるのではと思っています。

高校、大学を卒業し、安心して働いて、安心して結婚し、安心して子育てできるそういうまちだったら、過疎化とか地域がなくなるとかいう話がなくなるのにはと思います。そうするための意見は浮かびませんが、若い人たちがここにとどまれるような、いい案はないものか常に考えております。

●B委員

先ほど質問させていただいたのは、私が所属している「ホットハート由利」への助言や参画などがあるものかと思い質問させていただきました。

事前に配られた資料の中に、会長からも話がありましたが、「心配なくとしょれるまちづくり」ということで、20年程前に私が在職していたときにスローガンを掲げたものが、まだここに生きていると思い、とても感慨深く由利地域の文章を見せていただきました。

また、先ほど老人福祉について意見がありましたが、やってもらえるのが当たり前という意見もありました。アンケートにも書かせてもらいましたが、新構造ビジョンのなかに、「地域包括ケアシステム」というのが、何カ所も書かれておまして、各自治体が5年後までに、このシステムを作っていかなければならないと国からの指示がありまして、「心配なく年寄れるまち」と同じような、この住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最後まで続けることができるようなシステムが包括ケアシステムの趣旨ですけど、まずはそういうことを、これから高齢の社会を考えていく、地域づくりを考えていくためには、やっぱりこのシステムを頭の中に入れていかなければならないのではないかと思います。行政の方で計画は立てますけれども、市民向けの研修会も実施されておりますので、できればこの協議会でも、ということで要望を出しました。また、11月18日にホットハート由利で秋大の中村先生をお呼びしまして講演会を予定しておりますので、そちらに方へでも皆さん参加していただければありがたいと思っております。アンケートに書かせていただきましたので、企画運営部会でもんでいただければと思います。

●L委員

まちづくりってというのは、やっぱり人がいないとできないことなので、お年寄りだろうが子どもだろうが区別なく、今いる人達を精一杯手厚く育てていった方がいいのではないかなと思

います。それに準じて、地域の商店なども、お店の努力が結ばればいいのですが、なかなか廃業するようなお店も増えてきて寂しい限りですけれども、とにかく人がいないと店も動いていかないし、地域も全部動いていかないと思います。ですから、子どももちろん一番大切ですけれども、今いるお年寄り達もなるべく長生きしてもらって、安心して暮らしていけるようなまちづくりをしていけたらいいのではないかと思います。

●M委員

自分が携わっている中で普段感じていることですが、ゆりちゃん市場にいと、結構市外、県外からお客さんが来るのですが、「ここら辺に何がある」とか「どこに行けばいい」と聞かれるのですが、由利地域でここ、というところが思い浮かばないです。たとえば、旧鮎川小学校を紹介しても、そこに行っても、観光へ行った人が、食べたり見たりできるかといえば、できない。由利原までは遠いし、結局、「ここから5分くらいのところに西滝沢水辺プラザがありますよ、そこに行けば、食堂もありますし遊ぶところもありますよ」という感じの説明しかできないものから、普段から思うのですが、由利地域は自己主張が下手だというか、自分たちのいいところ、「これがあります」とか、「これを売りますよ」という自己主張というか、全面に出ることが下手なところだと普段から思っているのです。たとえば、お客さんがきたらここへ来て何かをする。いつも西滝沢水辺プラザと言っているのですが、食事もできるし川遊びもできる、そういうところがもっと「流れ」としてお客さんに喜んでもらえるような「流れ」ができる場所をもっと増やしていただきたいと思います。結局、看板もないものから、紹介する際に地図を書いて説明している。なかなか看板・標識、ここに行けばすぐわかるというものも少ないし、わかりづらいところがすごくあって、由利地域を全面に出す何か、自己主張のできるなにかができないかと思っております。

●佐藤イネ子副会長

この協議会に参加させていただいておりますが、皆さんからご指摘されて、何をしてきたのか自分でも問われています。けれども今までで、変わってきたなと思うことは、行政主体ではなくて、行政と一緒に私たちが動かなければいけない、そういうことを実感してきました。ですので、やってください、こうしてください、と言うのではなく、まず自分たちが動いて、できないところを行政にお願いする、そういうお互いのやりとりが必要なのではないかなと痛感しています。

それから、子育てとか、老人福祉とかいろいろな問題がいつも出てきます。でも、私は子育てにも関わってましたので、やっぱり家庭が基盤だなと思います。親の背中を見て子どもは育つし、子どもを育てるのは親であり、家庭である、そういうことは基本だと思います。ですから、うちもそうですが、若者を自由にさせすぎて、締めきがないというか、その家庭の一本がないと感じることがあるので、お互い助け合って家族なのだよ、と小さいときから子育ての中に取り入れてほしいと思います。大人になればこのように意見を言えるのですが、子どもは意見を言えないので、0歳から3歳までがすごく大切な時期なので、家庭で育てられるように子育て支援金のようなものはそのように使ってほしいなと思います。フィンランドなどは3歳まできちんと両親が育てられるように補助をする。そして、仕事は休める。そういうシステムができあがっているようです。ですから、消費税を多く支払っていますが、安心して子育てができるほとんどの親御さん達が言っているようです。そのように基本が成り立たないので、それこそ0歳から人頼みにしているから、今のように事件が起きていると思います。まして、メディアも発達し、スマホも発達し、最近も痛い思いをしている方々がたくさんいらっしゃいますので、やっぱり子育て、家庭が基本だと言うことを地域でみんなが支え合って、そうすれば、子ども達は、老人にも優しい声をかけられるようになる。どこかで支えてあげられるようになると思うので、やっぱり家庭を基盤にして地域がまとまって、お互いに支え合う、そのようにならなければいけないなと思いました。先ほど意見ありましたが、農業はそうやって成

り立ってきていたのですね、昔は。だから、小さい子どもも畑や田んぼで手伝いをしていました。やっぱり家族が助け合わなくてもいいようになってきたあたりから、こういう社会現状になってきているというのが、みんな同じことだと思うので、そこを、昔のように戻すのは難しいと思いますが、みなさん同じような意見を持っているのだなと聞かせていただきました。それについて、私たちまちづくり協議会がどのようなことができるかわかりませんが、1つずつクリアしていけたらと思いました。

●三浦雄一会長

ありがとうございました。みなさんからすばらしいご意見を出していただきまして、果たして2年間でみなさんの舵取りをできるかなと心配をしております。それで、この課題等を我々が2年間何をやるのかというのは、先ほど事務局から説明がありましたが、企画運営部会の設置をして、その中で検討するというので、早速ではございますが、部員の選任については、事務局より説明をお願いします。

木内課長補佐より事前に希望を伺っている内容を勘案し、企画運営部会の構成員の事務局案（三浦雄一会長、佐藤イネ子副会長、佐藤寛夫委員、正木みえ子委員、沢井英樹委員、酒田憲委員の6名）を提案

部会員の選任について、委員より異議なしの声があり、上記6名で部会を行うことで決定

6. 説明

・市総合計画・主要事業について

市総合計画について豊嶋振興課長より資料を基に説明

主要事業について各課長より所管事業を、資料を基に説明

7. その他

・由利総合支所庁舎建設事業について

事務局より資料を基に説明

●G委員

市民福祉課の事業の中に老人福祉に関する事業がたくさんありますが、出産・育児に関する事業はどのようなものがありますか。実際、ソフト面でどのような対応をしているかということですが、先ほど秋田県の方は主張が下手だという話がありましたが、私もそう思います。三重県での話なのですが、私の娘が実家へ帰って子どもを産もうという話をしたときに、その保健師さんなのか、妊娠当初から事細かなサポートをしてくれまして、出産近くなるとほぼ毎日のようにうちに通ってくれたそうです。地元の病院で出産してくださいと諭されたそうです。ですので、親元に行かなくてもそういった方々がサポートに来てくれて、出産後もすごく親切に声かけや訪問をしてくれてすごいという話を聞きました。地元にお金落ちるわけですね。出産費用、地元の病院を使うなど、誠に理にかなっているなと思います。真冬にテトラポットにしがみついて、岩のりをとっている庄内の方々がいらっしゃいますが、こちらの地元の方はわざわざここまで来て、ここのものを取っていくと言いますが、あなたがやればいいじゃないかと言っても、こんなに寒く危険なのにだれがやるか、と言うのがこの人たち、今まで田ん

ぼでゆっくり生計を立てられた人たちだなということです。それがなくて、よそのところに行っても生計を立てなければならない人たちとの差は非常にあると思います。地元にお金を落とそうという意識がない、そこが違うのかなと思います。

また、福祉の方についても何でもかんでもバリアフリーになって、施設に入っている人に動く危険だから動かないで、と声かけをしていると聞きました。何でもかんでも取り除いて、生活しやすくという考え方は根本的に違うのではと思います。確かにその方が聞こえはいいですが、要するに、80歳でも90歳でも、前日まで畑仕事をして翌日ぼっくりという人生が一番いいのではと思っておりますので、何年も病院通いをして、寝たきりで家族の世話になって、それがいい人生なのかどうかと考えます。健康でいるためにどうするのかだと思えます。ですから、あまりバリアフリーという考え方は、私は好きでないです。あまり、老人福祉の事業が乗っていると私は、反発したくなりますし、むしろ子ども達の事業がどんどん乗ってくるのがいい方向ではないかと考えます。

●三浦雄一会長

今の佐藤委員からは2

点あったと思います。1点目の出産等に対する支援内容については、後日担当課長から佐藤委員へ具体的にご説明をいただきたいと思えます。

2点目は、佐藤委員も企画運営部会員になられておりますので、自主活動の中でこの件を取り上げられるかという形になると思えます。市の助成に対する要望じゃないようなものをこの協議会であつかうようなものではないので、ぜひ具体的な協議をして活動をするのかどうかは企画運営部会の中でご意見をいただくということで進めたいと思えます。

●J委員

今後のスケジュールについて、次回協議会の日程は予定されているものでしょうか。

●三浦雄一会長

市が開催する協議会についてはおおよその時期はあると思えますが、自主開催については、次の企画運営部会において、日程が決められると思えます。

●J委員

だいたい4半期に一回といった感じで開催されるのではないのでしょうか。

●三浦雄一会長

そのあたりも含め、企画運営部会でどういう企画をされるかということになってくると思えます。

(閉会にあたり熊谷支所長より挨拶)

皆様方には、大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、三浦会長のもと第2期目となります、由利まちづくり協議会が始まったということでございますが、本日の活発なご意見・発表等それぞれのお話を伺いまして、非常に多士済々なメンバーで、昨年までの協議会とは別の新たな視点で、問題をとらえることができるのかなと期待しているところでございます。実際のところ、まちづくり協議会1期目の時から西目の振興課長というかたちで見えてきて、条例とか規則等にある「自主活動」というのが何かはつきりわからないところがあるのですが、皆様方のいろんなご意見の中でそれなりの方向性が見えてきて、由利まちづくり協議会の2年後の着地点が見えてくるのかなと考えているところでございます。

先程から出ておりますが、新創造ビジョンがいよいよ始まりまして、由利地域としては、まず先ほど説明があったとおり、長年の懸案でありました、総合支所庁舎建設がいよいよ始まっております。10月過ぎからは具体的に見えてくるでしょうし、来年の今頃には新しい庁舎で業務をしているのかなというような考えでありますが、いずれこの場所に庁舎ができ

ることで、行政ゾーンという、由利町時代から構想がありました、そういったものが完成するかたちになります。そういうことで、町中からは若干外れるかたちで、今までの庁舎近辺の方には不便をかけるかと思いますが、地域全体としては、ワンストップというかたちで、この近辺に来れば公的な所用は果たせるといったゾーンになるのかなと期待しているところでございます。

今後、ますます皆様方には由利地域のために活発なご意見をいただきながら、自主活動を充実させていただくことで地域の活性化や地域活力の維持のために、貴重なご提言等をいただきますよう心からお願い申し上げまして、最後に当たっての挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。今後ともご指導よろしく申し上げます。

閉会：午後４時